



平成29年5月1日

生徒・保護者の皆様へ

品川女子学院
理事長 漆 紫穂子

創立を記念する日にあたって

品川女子学院の種がまかれたのは大正8年、女性参政権もない時代でした。創立者 漆 雅子は「いつか女性が家庭の中だけでなく社会に出て働く日が来る。その日のために、知識と教養と徳を持った女性を育てたい」という志を持ち、地域の女性を集って「荏原婦人会」を作りました。

その4年後、大正12年に起きたのが関東大震災でした。地震直後、この地域の町長だった漆昌巖が調達した物資を託された婦人会の女性達は、夜を徹して炊き出しをし、けが人を介抱しました。それを見た周りの人々もこの地に踏みとどまって協力し、その結果、この地域では、餓えや手当の遅れから命を落とす人がほとんど出なかったと言われています。

その後、日本は力を合わせて復興していきました。震災から2年後の大正14年、荏原婦人会の人々のような女性を育ててほしいと、集まった寄付と私財を合わせ、初めての校舎が誕生しました。

今と比べものにならないくらい弱い立場にあった女性達が、希望を失わず、前に向かって一步を踏み出し、周りの人を巻き込んでいった。それがこの学校の成り立ちです。

災害の続くここ数年、その学校に縁あって集う私たちには、特別な役割があると感じざるを得ません。この世に生まれ、生かされている意味は何なのでしょう。今すべきことは何なのでしょう。「創立を記念する日」にあたって、それを一緒に考えられたらと思います。

品川女子学院での6年間、どこかのタイミングで「やる気のスイッチ」が入った卒業生のエピソードをまとめた冊子をお渡しします。また、創立を記念する日にあたって、品川女子学院後援会からお菓子をいただきました。92年の歴史を想いつつお召し上がりください。

